

## 日本ペンクラブへの要望事項

『電子文藝館』掲載作品について、非営利・無償による朗読のネット配信（公衆送信）に対して、包括的な許諾をお願いします（ホームページでの提示）

### <説明>

日本ペンクラブが『電子文藝館』を開館されてから、5年以上がたちました。掲載作品は数百に及び、「これら一切を『パブリック・ドメイン=公共の文化資産』と認めて無料公開し、広い世界の愛読・愛好に応えている。新世紀ウェブ環境の新しい読者たちの前に、・・・『読んで楽しむ』受発信をと、日々、苦心工夫を重ねている。」という宣言には、文藝家団体としての意気込みが感じられ、深く敬意を表するものです。

朗読愛好家からの願いは、ここに掲載されている作品群について、非営利・無償による朗読のネット配信（公衆送信）に対して、包括的な許諾をお願いできないでしょうか、ということです。

電子文藝館は、現時点では、ウェブ上での公開に限って、著作者の方の許諾を得ているというのは十分理解しています。当然のことながら、これを勝手にダウンロードの上、複製して頒布・販売することが想定され、あるいは許されているものではないことはもちろんです。

ただ、ここに掲載されている作品は、館長のお言葉にもありますように、有名作も一部にあるものの、「現在なお書店等で入手のラクな作品はなるべく避けている」「もっと大事に考えていることが有ります。もう忘れられかけている、しかし生前には力ある優れた仕事をしていた、残念ながら湮滅直前の書き手たちの仕事を、大切に、敬意を払って再現している」(2005年4月25日付け)ということであれば、それらの作品を広く世に知らしめ、湮滅直前の作品に新たな息吹を吹き込んで蘇生させる、ということは、電子文藝館運営の大きな目的の一つではないかと思えます。

そのような目的を果たすために、朗読愛好家の力を借りる、というように受け止め、ご理解をいただけないでしょうか。

著作権が切れた作品をボランティアの手で広く収録している『青空文庫』というものがあります。そこでは、近代文学者らの小品も含めて数多くの作品

が掲載されています。朗読愛好家は、それらの中から、有名作品だけでなく、ほとんど知られていない、あるいは忘却されてしまった佳作を、自分たちの朗読ブログなどで読み、新たな息吹を吹き込んでいます。そして文藝に関心を持つ一般の人々がそれらの朗読を聴き、そのような作品の存在を認知し、その魅力に目覚めるようなことがそこかしこで生じるようになっていきます。朗読愛好家は、著作権切れの作品だけでなく、まだ保護期間の50年が経過していない作品も是非読みたいという強い願望を持っています。

電子文藝館の掲載作品は、小説あり、随筆あり、詩あり、ノンフィクションあり、はたまた、戯曲あり、和欧訳ありと、実に広範であり、必ずしも知られていないものであっても、朗読愛好家にとっては是非詠んで見たいと思わせるような魅力があるものが数多く揃っています。

電子文藝館を朗読愛好家に開放していただければ、「忘れられかけている湮滅直前の」作品群が活発に朗読の対象として取り上げられるようになり、必ずや一般の人々に再認知され、時空を超えて現代に甦るものと確信しています。

もちろん、電子文藝館に掲載されている作品の中には、朗読CDが発売され、予定されているものもあるかもしれませんが、それと競合するような朗読の許諾はしたくないというご判断もあるかもしれません。あるいは、webでの掲載以上に作品を扱ってほしくないという作家の方々もおられるかもしれません。そのような作品をもすべて朗読に開放してくださいということではもちろんありません。電子文藝館に出展しておられる著作権者の方々に、非営利・無償を前提とした朗読のネット配信（公衆送信）に対して許諾してもいいという作品を選んでいただき、電子文藝館のサイト上で、許諾する旨を宣言していただけないものか、というお願いなのです。

朗読愛好家を、忘れられかけている作品を時空を超えて甦らせ、「読んで楽しめる」だけでなく「聴いて楽しめる」国民の共有の文化資産として定着させるための協働作業の同志としてお考えいただき、ご検討を切にお願いする次第です。